

第72号 「レットイットビー」

令和2年2月20日

私が生まれた昭和37年（1962）、その後の音楽界に多大な影響を与えることとなるロックバンドが、イギリスでメジャーデビューしました。「The Beatles（ザ・ビートルズ）」です。

ビートルズは、1966年に日本武道館において最初で最後の日本公演を行っています。羽田空港で法被を着た4人が日本航空機から降りてくる録画映像を、私も何度かテレビで見たことがあります。4人は1970年の解散まで多くの名曲を世に送り出しました。その中に、アルバム「Let It Be」（レットイットビー）に収録されている同名曲「Let It Be」があります。

「レットイットビー」を日本語に訳すと、「そのままにしておく」とか「あるがままに」となり、「心配せずに成り行きに任せよう」というニュアンスがあります。似たような言葉に「Let it go」（レットイットゴー）があります。「レットイットゴー」というタイトルの曲として、2013年のディズニー映画「アナと雪の女王」の主題歌があり、日本では「ありのままに」というタイトルで大ヒットしました。実は、「レットイットゴー」を日本語に訳すと「ありのままに」ではなく、「それでいいとする」とか「それ以上追求しない」となるそうです。「もう忘れて前へ進もうよ」というニュアンスを感じます。2019年11月には「アナと雪の女王2」が公開され、主題歌も含め大きな話題となりました。

「レットイットビー」について述べます。私はこの言葉を「自然体」という言葉に置き換えたいと思っています。この「自然体」という言葉は私の好きな言葉の一つです。何事も無理をせず常に自然体で生きていけたら、自分にとっては本当に幸せなことだと思います。しかし、本当の意味での自然体でいるためには、そこに至るまでの努力が必要なはずで、そして、自分が自然体でいることができるとしたら、そこには周りからの理解が必要なはずで、つまり、自然体でいるためには、それまでの努力と頑張り、そして周りの協力が必要になるということです。「自然体、あるがまま」ということを、自分の思い通りにやることだと勘違いし、それを人に押し付けるのは、単なる「わがまま」と捉えられてしまいます。

「自然体で臨みたい」と言える人は、それまでの準備をしっかりと、人知れず努力をしている人、そして周りの人たちのこともしっかりと考えることができる人だと私は思っています。そのことを理解した上で、私はこれからも「自然体」を大切にしていきたいと考えています。